KSKQ
京橋 おかげさま 通心
2020年 11月 8
『はたらく』 就労移行支援事業所 きょうばし
正真会
『くらす』 生活訓練施設 加光

正真会

人の成長を喜び、人に学ぶ
苦労の果てに見いだすもの

管理者　寺村　肇

いつもお世話になり有難うございます。日を追うごとに肌寒くなるこの季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。おかげさまで、10月31日には2020年度初の地域公益行事「京橋わっくわく 手づくり市」を無事開催することができました。ご参加頂いた皆様やボランティアの皆様、様々なご支援を頂いた皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。〝w i t hコロナ〟という新しい生活様式の中で、人と人が出会う機会は一時的に減少しましたが、改めて人の手が直に紡ぎ出す大きな力は、沢山の人の心の支えとなることを再認識する機会となりました。

嬉しいことがあったので、少しご紹介いたします。とある職員の成長のお話です。色々な想いや感情があっても、なかなか行動に移せない時期というのは、誰もがある経験だと思います。自信を持てない自分を責めたり、イライラ、モヤモヤしたりしますよね。まさにそうした状況に向かい合い、葛藤と挑戦を重ねている姿をこの数年ずっと見てきました。皆様お察しの通り、そう簡単に成果は伴わないものですから、今となればその覚悟は確かなものだと言えますが、強い気持ちを保つ為の苦労は相当なものであったと思います。当の本人に聞けば「まだまだ道半ばで、何者にも達していない」と言うのでしょうが、周りの職員たちが変化していく様を目の当たりにすれば、その根拠は明らかです。内なる葛藤に飲み込まれそうになりながらも自分に鞭を打ち、常に利用者の方と共にあって、彼らに学び、彼らの成長を共に喜ぶ姿を目の当たりにして、私自身も強い活力を貰っています。

●施設紹介● きょうばし
事務部門
～基本となる姿勢を～

きょうばしの事務部門は、「様々な企業様からの名刺依頼を校正し、作成して発送する」「病院検査用紙や封筒を印刷して発送する」「給食事業の献立表を見やすくするためにライン引きをし、切り方などを書いたメモ用紙を作る」「喫茶店の売り上げの伝票をエクセルなどで起こす」「イベント用のチラシ作りや発送準備を行う」など、様々な分野の仕事を担当しています。利用者の方は常時3名で、直接の担当職員は1名という状況です。基本的には業者様からの指示がありますが、優先順位が分からなければ確認をするようにしています。

利用者の方に接して感じる事は、それぞれの個性や強みが違うという事ですね。「自分で段取りを決めて協力しながら行うのが得意」という方もいれば、「最初から最後までの工程を自分ひとりで行った方がスムーズ」という方もいます。そうした点にも配慮しながら、自己理解の向上を目指してフィードバックの機会を増やしている最中です。

それと共に、ここで学んで欲しいと願うのが「人とのかかわり方」という基本姿勢です。挨拶や声出しから始まる仕事や人間関係のベースとなる素養を、ここでしっかりと培って欲しいと考えています。何もかも守ったりサポートしたりするのではなく、「一般企業に近い現場」で自立と成長を促す、という視点も重要だと思っています。

私が事務部門の担当になってから取り入れた業務日誌はすごくいい成果が表れているんですよ♡

きょうばし就労支援員
田中 涼子

「加光」見学会のご案内
11月26日(木)●10：40～12：00
12月10日(木)●10：40～12：00
（毎月第2・第4木曜日を予定）

TEL 06-6351-8668 ★ FAX 06-6351-3666
メール kakoh8668@shirt.ocn.ne.jp
HPのお問合せメールフォームからも可能です

「きょうばし」見学会のご案内
11月26日(木)●10：00～12：00
12月10日(木)●10：00～12：00
（毎月第2・第4木曜日を予定）

TEL 06-6357-7007 ★ FAX 06-6357-6665
メール kyoubashi@kind.ocn.ne.jp
HPのお問合せメールフォームからも可能です

上記日程にて「加光」と「きょうばし」の見学会を開催致します。ご利用をお考えの方、企業の皆様、職員応募をお考えの方など、どなたでもご参加いただけます。お申し込みは、お電話にて、またはFAX・メールにてご希望の日にち、お名前とご連絡先を記入しお送り下さい。（※本件以外でこちらからご連絡することはございません。）

お待ちしております

一九九一年九月三日　第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価五十円

イベント情報

はじめて参加される方や、いろんな世代の方がこの講座の作業を通じ、気軽に話ができて交流が持てる場所づくりを目指しています。また、毎回異なることをしていますし、未経験でも大丈夫なので、ぜひお越しください！

きょうばし
職業指導員
安藤 和花

就労移行支援事業所きょうばし 企業見学会 11月

企業見学会 Check

11／19（木）株式会社大源味噌様
https://daigen-miso.com/

正真会

法人理念
誰もが人として暮らし、人としての喜びを感じられる社会を創造します。人の歩みを共に慶び、共に学び続けます。

正真会はSDGsの項目で次の持続可能な開発目標を掲げています
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
8 働きがいも経済成長も

■編集人■（毎月発行）
〒534-0024 大阪市都島区東野田町5-5-16
京橋おかげさま通心 編集委員会
電 話 06-6351-8668
■制作・協力■
NPO法人 チャレンジステージ
HP：www.challesta.com
■発行人■
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2　東興ビル4階

ひと
京橋の「魅力びと」紹介

一般社団法人 京橋地域活性化機構
理事長　鷲見 慎一氏
http://we-love-kyobashi.jp/

ソフト面の魅力開拓 G・I・ジョー新作に映える京橋

京橋の街づくり、人づくり。非常に幅広い分野での活動をしています。私がこの分野へ一歩踏み出したのは、周囲にがもよん（蒲生四丁目）の地域活性プロジェクトを手掛けていた方や、ひこにゃんブームなどを生み出したPRプロデューサーの方がおられたからだと思います。

がもよんの地域振興と言いますと、「古民家再生のイノベーション」という「ハード面」の魅力を活かす形での進行がメインでしたが、京橋は「ハード面」ではなく人や商店街の雰囲気などの「ソフト面」が魅力です。ですから、その点を掘り下げて、「しゃべり場」や各種PR活動を展開しながら、様々なアイデアを実現しています。

直近ではコロナ禍直前に、ロベルト・シュヴェンケ監督のハリウッド映画『G・I・ジョー：漆黒のスネークアイズ』のロケが京橋でありまして、これに関連した多彩な活動を行っています。地域資源というのは、「外側にいる人」や「若い人」の方が気付きやすいという事もありますので、その点を今後も重視していきたいです。

コロナ禍により人の動きが制限され、私たちの活動も苦難を感じていますが、こういう時期だからこそ行える動画配信、メディア展開、SNS活用等の「発信」に注力しております。今後も若い人たちの生み出す力とアイデアを実現させながら、京橋全体を盛り上げていきたいと思います。

先月、見学会を受け入れて下さった誠幸運輸倉庫株式会社の皆様からご丁寧なお葉書を頂戴し、参加者一同、たいへん感激致しました！こうしたお気持ちもまた、たいへん学びになり、今後に活かしてまいります。有り難うございました！

チャレステコラム
灯台下にヒントあり

NPO法人
チャレンジステージ
代表理事
山下 勇雄

◆最近、大河ドラマに興味が湧きまして、特に明治維新の時代モノが気に入っています。中でも『西郷どん』は全47話を10回以上は観ていますね。ふとした瞬間からひき込まれ、後半は手に汗握り、何度も涙しました。学生時代から歴史にはとんと興味が無かったのですが、積極的に時代背景や人物の勉強をして観るとこれが実に面白いと思うようになりました。人物や出来事が交差する他の大河ドラマも観て、違う視点や立場から歴史や人物の想いに触れると、楽しさ倍増です。人のあり方や運命の選択についての学びも得られます。このように、人としての、あるいは仕事をする上での学びや成長は、どこに転がっているか分からないものだな、とつくづく思います。意識、意味や意義、興味や関心、意欲の程度や確固たる行動力。こういったものは、何気ない暮らしの中にも大いなるヒントが隠されているんでしょうね。

一九九一年九月三日　第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価五十円

スタッフ紹介

入職時期　2020・2
名　前　河野　史弥
担当部署　就労移行支援事業所　きょうばし　職業指導員

積極性から活力を頂く現場
自立への道

就労支援という分野に踏み出したのは、身近に「働きたいけど働けない」という状況にある方がいた事がきっかけでした。その分野の中でもきょうばしに決めたのは、「実践的」な支援を行っているという点に注目したからです。一般企業と同じような環境で仕事に接し、具体的に働くという機会を得られるというのは、とても重要な事だと感じました。

現在は喫茶店に配属されています。以前は冠婚葬祭の仕事をしていたので、今回の接客業とも親和性がありました。ですから仕事内容はある程度はイメージ通りでしたが、支援の方はイメージとは違いました。「プロセス通りに学習の段階を踏む」ような体系的な想像をしていたのですが、現実はそうはいきません。利用者さんの特徴や個性は皆違いますから、ひとりひとりに寄り添い、また向き合って理解する必要があるように感じました。このような「人を理解する、人を知る」というのは難しい行為なので、その部分は私の今後の課題でもあると思います。

また、日々利用者さんを目の当たりにしていて、深く感銘を受けることがあります。何かというと、その積極性や熱意です。私は「仕事」というものが、「自己」と「社会性」というそれぞれの要素が触れ合う場所だと思っています。自己と社会の接点となる所に「自立」が生まれ、それが人生を豊かに広げる基点となります。利用者さんの積極性は、そうした自立の原動力となるものであり、私としても改めて刺激を受けています。そうした活力を得られるという体験も、私のやりがいに繋がっています。

きょうばし　職業指導員　安藤 和花

河野さんは不器用さんだけどすごく実直で一生懸命。また失敗からそれを成長に変えていく方だと思います。これからも共に正真会を盛り上げていきましょう！

社長・社員の「働くとは？仕事とは？」

株式会社 遊企画
取締役会長
施　治安 氏

働く事とは「貢献」である

経営者としての立場で、「働く」とは「貢献」であると考えます。一般的に働くというと生活費を稼ぐ事ですが、それだけの為にいやな上司のもとで理不尽なことでも辛抱して働いても、なかなか続くものではありません。「職場を通じて地域や社会のために貢献していく事」が、一番大切なのです。その為には、周りからgiveしてくれるのを待つのではなくて、自分からgiveしていく姿勢が必要。それは苦労でも損でもなくて、必ず自分の幸せとして戻ってきます。

私がそのように「貢献」に目を向けた契機は、二つあります。私は大阪生まれ、大阪育ちですが、祖父が中国・江蘇省出身です。両親は日本生まれなのです。ですから、自称アジア系の大阪人といった所。ですから、まずは「貢献」よりも「存在意義」に目が行きました。契機のひとつ目は、高校3年生の時。ホームルームで在日韓国人の同級生が突然本名をカミングアウトして、そこから自分の存在意義の事を考え始めました。そして、契機のふたつ目は、大学1年の時。1972年、田中角栄首相の中国電撃訪問により、日中文化・経済交流が再開します。これを機に、私は「日中の懸け橋として貢献したい」と想うようになったのです。

大学卒業後は父の事業を手伝い、25歳のときにアパレル分野で独立。35歳の時、当時では珍しいカラオケルームを2軒オープン。次は中国上海へ行き、ボウリングセンターを開業。その後、50歳になってビル管理に特化し、他の事業は整理をして、ここから本格的に「貢献」へ進みました。

法政大学の坂本光司教授の著書『日本でいちばん大切にしたい会社』に、このような表現があります。「『社員とその家族を幸せにする』を第一に掲げ、地域に貢献して、地域からも愛されるような会社が理想的である」―誠に、その通りだと思います。今後も、私は社会貢献というテーマを掲げて、自らの事業を進めて行こうと思います。

今月の利用者さん　Sさん

ありがとうの現場　笑顔に触れる仕事を目指して

きょうばしの利用は2020年８月からです。そのキッカケは、北部地域障害者就業生活支援センターからの紹介でした。

きょうばしの最初の印象として強く残るのが、喫茶店での仕事ぶりです。利用者さんが笑顔で楽しそうに仕事をしているのを目にして、明るい環境だと思いました。指導員の方も親切で、ここなら色々と挑戦が出来ると思ったのです。また、もともと学生時代のアルバイトを通じて接客業が好きであった事も理由のひとつです。お客様が笑顔で買い物をされる風景があったり、「いつもありがとうね」と言って下さる機会もあったりと、それらが本当に嬉しいと感じます。

私にとって働くことは人生そのものです。お金の件もそうですが、そこに幅広い人生の糧があるという点も重要だと思います。働いているからこそ、収入を得て、自分の好きな事が出来て、家庭も築ける。どういう道を歩むにしても、働いて、そこで努力する事が必要だと思います。夢は、自分が作ったものを販売して、お客様が笑顔になれる、そうした職に就けたらと思っています。

支援者の声

訓練施設や社会経験を経て、色んな思いをもってきょうばしに来て下さいました。その思いを大切にしつつ、ご自身の強みを一緒に探し、目標に近づけるよう一緒に頑張っていきましょう。

きょうばし 就労支援員　田中涼子

ひと　関係機関様の「魅力びと」紹介

このコーナーは正真会が日頃お世話になっている関係機関の方々に登場していただき、現場に関わる中での課題や想いなどを語っていただきます。

可能性への気づき

大阪府立中津支援学校
教頭 山嵜 夏生 氏

障がいのある方との交流は、学生時代、たまたまご縁のあった障がい者スポーツセンターでのアルバイトがきっかけです。ここで面白いなぁと思ったのが、障がいのあるこどもが持つ未知の可能性です。障がいのない方々の多くは動きや体の在り方を見ていると、ある程度のセンスや成長性というものを予測できるものなんですが、障がいのあるこどもはまったく違う。本当にちょっとした補助でスイスイ泳げるようになったり、投擲（とうてき）種目で投擲台の高さや角度をほんの少し調整するだけで記録が一気に伸びたり。こちらがその「可能性」に気付くか、気付かないかというだけで、まったく数字が違って来る。こういう体験は心から興味深いと思いました。

その後、教員になって、就労支援という現場に深く関わるようになったのですが、最初はうまくいきませんでしたね。個人だけの問題ではなく、福祉・企業・行政と色々な要素が複雑に絡まっている世界ですから、なかなかマッチできない。それでも、障がいのある生徒の個々の特性と社会が求めるものをマッチさせていって、生徒一人ひとりの能力を活かせる企業を探しました。

そういう経験があっての、今です。学校での教育活動を通じて児童生徒が自分でできることを増やし、出来る限り、一人ひとりの可能性（進路選択）の幅を広げたい。そういう想いで、今も頑張っています。

Check 企業見学会

株式会社 遊企画様　自社ビル運営管理

やりたい・できる・必要とされる

利用者の方々に寄り添ってお話をされる施会長

見学会で得られた学びを再確認するワーク

施会長のご講話

施会長ご考案のミッション探求シートでワーク中

最後は記念撮影

10月15日、株式会社 遊企画様にて企業見学会を開催致しました。取締役会長の施 治安氏は、「ここは自称、難波の隠れ家」と語られて、車座になっての見学会スタート。皆さんの緊張をほぐすような、施会長のウィットに富んだ親しみのトークを頂きました。自己紹介タイムではアイスブレイクも兼ねて「最近嬉しかったこと」から始まり、企業概要や施会長のこれまでの軌跡、「仕事、働くとは？」についてのお話を頂戴しました。

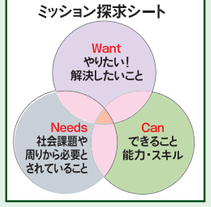
施会長は経営者としての立場として、「職場を通じて地域や社会のために貢献していく事が一番大切」だと語りました。その中で、良い社長や良い仲間と働ければ、幸せに仕事が全うできるというお考えです。ただ、資本主義社会の現代は光も影も大きい。特にサービス業は過酷で、接客に従事している人たちにしわ寄せがいく状況なので、こちらは社会全体で改善をせねばならない部分だと語られました。

続けて、自分に合った仕事、職場をみつけていくワーク、施会長考案の「ミッション探求シート（※図参照）」を説明して頂きました。「Want（やりたい事）」「Can（出来る事）」「Needs（周りから必要とされている事）」という三要素を重ねた、非常に意義深い内容となっていました。

お話終了後は質疑応答タイム。ひとりひとりの感想や質問に丁寧に回答して頂き、時には近い距離で寄り添いながら会話をされる場面もありました。

今回の企業見学会では、施会長のご配慮やアドバイスのおかげで、「仕事」や「働く」を捉えるアウトプットの体験を頂きました。ミッション探求シートは事業所へ戻った後も実践し、また、別の日には「働学プログラム」の「環」として振り返りワークを行ないました。自身の意識と行動の理解を深める、とても素晴らしい機会を頂戴致しました。

自分が「これをするために」生まれてきた！ ミッション探求シート



次回開催★11/19（木）　株式会社大源味噌様　https://daigen-miso.com/

職場実習 顔合わせ

先月の企業見学会でお世話になりました誠幸運輸倉庫株式会社様で、参加者のお一人のFさんが職場実習の機会が得られ、訪問。ジェネラルマネージャーの山口様から実習という機会に対し、たいへん嬉しいお言葉を頂戴いたしましたので、ここにご紹介をさせていただきます。

○社会に対しての恩返し　私たちはお客様のお荷物をお預かりし、公道をお借りして運ばせていただいている。障害者の方の職場実習という機会が少しでも社会の恩返しになればという気持ち。

○“働く”ということへの姿勢　我々の中では“働く”ということが当たり前に感じている面が多々あるが、就労を目指す障害のある方の働く姿勢に接し、謙虚に初心にかえり、今一度“働く”ことへの意欲ややりがいの気持ちを学び得たい。

今月のひと OB・OG紹介　第３回　season2「達成期」

井上和夫 氏(全5回)　「キャリアの達成と過酷な日々」

人は、成長と失敗の繰り返しです。そうした繰り返しの中で、私たちは考えます。働く事とは何なのか、生きる事にはどういう意味があるのか、と。時に、壮絶な経験を乗り越えた方は、人としての厚みと深みを獲得し、その質問に対する答えを持ち得ます。そのような方の歩みは、私たちに多くの学びをもたらしてくれるものです。本稿は、「井上和夫氏」の人生と想いを４回に渡って連載する、その第２回。井上氏の人生にある大きな四つの区切り、「努力期」「達成期」「転落期」「再生期」、その第二シーズンの物語です。

持ち前の厳格かつ熱心な努力の結果、食の道で充実のキャリアを手に入れた井上氏。33歳で結婚をして２人の子供にも恵まれ、充足感に溢れる日々が流れます。そこから50代前半まで、まさに彼は飛ぶ鳥を落とす勢いの波に乗る事となります。ファミレス店舗のＳＶ職までのキャリアを経て、更に高みを目指した井上氏は、全国大手ラーメン店へ転職。アルバイト社員からのスタートでしたが、ここでも無上の働きぶりを発揮。いつの間にか正社員となり、45歳の頃にはＳＶとして複数店舗の立ち上げを任されるまでに成長していたのです。その業績が広く認められ、「社長から直々に１店舗の経営権を無償で譲渡される」までにキャリアの完成に至っていました。井上氏の人生においてひとつの達成が、この時になされたというわけです。

しかし、ここでいよいよ井上氏に暗い影が忍び寄ります。その途方もない仕事への献身ぶりは、家族も自らの健康も振り返らない、極めて危険な猪突猛進ぶりでした。連続18時間勤務を繰り返し、睡眠を取る為に徐々に飲酒の量が増え始めました。50歳に足を踏み入れても、その状況は改善されるどころか、ますます加速をして行きました。

そして２年後、遂に「転落」の鐘が鳴り響いてしまったのです。

「きょうばし」OB・OG会「Thyme」の紹介

きょうばしのOB・OGがホッと安心する場所、帰れる場所。個人が人として成長して学んでいける場。それが、“楽しむ、学ぶ、伝える”のコンセプトのもとに生まれた「Thyme（タイム）」です。

先月、Thymeの活動で、「久しぶりに会おう会（お食事会）を行ないました。コロナ禍でしばらく活動を休止していただけに、久しぶりに皆さんの元気なお顔が見れて、嬉しく楽しいひとときでした。

この度、「工房はんど」さんのご協力で、Thymeのロゴが完成いたしました！

《Thymeロゴへの想いや意味》
- 色々な色や形の鳥は卒業生をイメージしており、多様な人がいることを表している
- 鳥の周りの木のモチーフはきょうばしを表しており、鳥達が止まり、羽を休める役目をしている
- 卒業生が安心して帰れる場所となりたい
- Thymeで皆と繋がることで、一人じゃないと安心してほしい（鳥が手を繋いでいる様子）

12月Thyme忘年会
日時：12月18日(金)19：00～21：00
場所：京橋駅周辺で調整中

今年一年のイロイロをみんなでワイワイ話しましょう。皆さまの参加をお待ちしています～！

きょうばし就労支援員　出口 奈々恵